

めでいかすとる
Médicastre



「銀閣寺」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：平成28年8月26日(金) 19:00~20:30
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

『妊娠・授乳中の薬の使い方』

国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター
主任副センター長 村島 温子 先生

当然のことながら胎児は母体の中で成長する。「健全な母体に健全な児は育つ」とは30年前に日本で初めて大阪府立母子保健総合医療センターに設置された母性内科の創始者である木戸口公一先生のお言葉である。慢性疾患を持つ女性であっても適切な治療を行い、ベストな状態で妊娠に臨んでもらうことを目的に診療している母性内科にとって、「妊娠・授乳と薬」は最も重要なテーマである。

倫理的にヒトを対象とした妊娠中の安全に関する臨床試験はできないので、添付文書の妊婦の項は動物実験の結果を参考に作成される。発売後しばらくすると、市販後調査や疫学研究が行われ、少しずつヒトのデータが出てくるのである。このようにエビデンスの乏しい状況にあっては妊娠中の薬剤投与は慎重になるべきであるが、薬剤服用を恐れて母体の全身状態が悪化するようであれば、かえって胎児への悪影響が懸念される。そのため薬剤の危険性と有益性を検討したうえで、判断することが必要になる。また、妊娠していると知らずに薬剤を使用してしまい、不安から妊娠継続をあきらめるケースもある。しかし、胎児へ悪影響を与える程度・確率から言うと冷静に対応すべきケースがほとんどである。

妊娠中に薬物を使用する場合、添付文書を参考にするのは当然であるが、あくまでも製薬会社の作成するものであるということを我々は認識する必要がある。臨床の現場ではFDA分類が重宝されてきた。しかし、8年前にこの分類

方法は廃止されることが発表され、昨年6月に記述式に移行した。日本においても添付文書の「妊婦・授乳婦の項のあり方」について研究班で長く議論されてきたが、添付文書に反映されるまでは時間がかかると考えられる。それまでの間は国内外の成書や産科ガイドライン2014年版が有用である。個々の症例については、厚労省の事業として発足した妊娠と薬情報センターで相談に応じているので活用していただきたい。国内外から収集した最新の情報提供を行うとともに妊娠転帰の調査を行い、これらを基にエビデンス創出にも努めている。

日本の添付文書には薬剤が乳汁中に分泌されるというデータがある場合は新生児への有害事象の有無に関わらず授乳中止とされているが、母乳栄養のメリットを考慮すると安易に授乳を中止すべきではない。妊娠と薬情報センターではHP (<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/index.html>) に授乳中の薬剤使用に関する基本的な考え方、母乳栄養との両立が可能な薬剤、不可能な薬剤が掲載されている。いずれにも名前がない薬剤は科学的データがないものであり、個々のケースで迷う場合には電話相談も可能である。

当日は、妊娠・授乳中の薬剤使用に関する考え方(総論)と、日常診療で使用する機会の多い薬剤(抗生剤、消炎鎮痛剤、胃腸薬、抗アレルギー薬、降圧薬、精神神経系薬剤等)の使い方(各論)についてご説明したい。

鶴岡准看護学院学校説明会

日時：平成28年8月5(金)・6日(土) 10:00～
場所：鶴岡准看護学院

暑さも続く8月初旬、本学院3回目となる学校説明会を2日間開催しました。

説明会には、鶴岡・酒田以外にも村山地方や最上地方、また県外からの参加もあり、高校生14名(3年生13名、2年生1名)、社会人6名、保護者5名の計25名の参加がありました。前半は3階講堂においてスライドを用いながら学校概要、カリキュラム、学校生活や年間行事などについて教務課課長より説明いたしました。メモをとり真剣に耳を傾けている参加者も多く関心の高さが伺えました。後半は学院内の施設見学を行い、その後学内実習室に移動し、在校生6名とともに血圧測定・脈拍測定の学内実習の見学と体験を行いました。参加者の中には実際に聴診器に触るのも初めてで在校生より指導を受けながら、興味深く体験をしている人もいました。保護者の方々も和やかな雰囲気の中で話をしながら見学していました。採血の実習で使用する模擬血液を流したシミュレータや、モデル人形を使用しながらの洗髪車も展示し、教員が説明しながら実際に触ってもらいました。

昨年のアンケートで「在学中の学生に話を聞くことができ大変よかった。」という意見が多かったため、今年の学校説明会では2年生の教室でグループ毎に在学生とのフリートークの時間を設けました。お茶を飲みながら和やかな雰囲気の中会話もはずんでいました。

参加者の感想では、「学生の皆さんが明るく、丁寧に説明してくれた。」「この学校で学びたいと思う気持ちが強くなった。」等の意見も多くありました。来年度入学されることに期待し、今後の学校説明会の内容も検討を重ねさらに充実させていきたいと思えます。





第25回 医師会納涼ビアパーティ

日時：平成28年8月5日(金) 19:00～

場所：グランド エル・サン

8月5日(金)、夏の恒例となりました医師会納涼ビアパーティをグランド エル・サンにて開催いたしました。

今年で25回を迎え、292名の方々より出席いただきました。今年のテーマは同日開催される「オリンピック」。鈴木聡先生の開会あいさつ、土田兼史会長のあいさつ、三浦道治先生の乾杯で宴がスタートしました。

恒例の新人職員による余興は、みずばしょう、湯田川温泉リハビリテーション病院、健康管理センター・医師会館の順に先輩職員の大きな声援をうけステージを目一杯使用した迫力あるパフォーマンスが繰り広げられ、その後の大抽選会では名前が読み上げられるたびに歓喜の声があがり、大いに盛り上がりました。

最後に福原晶子先生より閉会のあいさつをいただき、実行委員がクラッカーを鳴らし閉会となりました。

来年もたくさんの方より出席いただき、普段触れ合うことの少ない会員の先生方や、また違う事業場で働く職員との交流を深められればと思います。

実行委員長 加藤 順司





医師会納涼ビアパーティで、新人職員としてダンスやコントを披露させていただきました。ビアパーティに向けて、入社当初から何をするか少しずつ話し合い、1ヵ月程前から練習をし、臨みました。揃って練習できる日は限られていましたが、その分自主練習でカバーできました。私たちみずばしょうでは、1週間程前の夏祭りでも披露させていただいたかいあって、ビアパーティ当日、思いの外緊張せず適度な緊張感で楽しく踊る事ができました。先輩等からの声援や手拍子もとても温かく嬉しい限りでした。他の部署の方々の余興も素晴らしいものでした。新人職員が力を合わせ、余興をするという素晴らしい機会をいただきありがとうございました。

また、これからも新人職員一同、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。

みずばしょう 丸山 千尋



表 彰

この度 福原 晶子 先生が栄えある表彰を受けられました。
誠におめでとうございます。



福原 医院
福原 晶子 先生

山形県救急医療・救急業務関係者知事表彰

長年にわたり地域の救急医療・救急業務にご尽力された
功績が認められ、山形県知事より表彰されました。

(9月8日表彰)

YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

ラジオ収録記

鶴岡市立荘内病院歯科口腔外科
武石 越郎

この度は、荘内病院院長・三科武先生からのご紹介で鶴岡地区医師会を通じて、YBCラジオ「ドクターアドバイスできょうも元気！」に出演する機会を頂き誠にありがとうございました。

収録は梅雨の晴れ間の7月1日に山形市メディアタワーにて行われました。

番組ディレクターによると、歯科医師の出演は2回目で、口腔腫瘍（がん）が扱われるのは初めてとのことでした。1回15分、月～金までの5回分を1日で収録します。月・火曜日分は、歯科口腔外科で行われる診療と口内炎について、水・木曜日分は口腔がんと治療について、金曜日分では動注化学療法について話しました。ラジオなので、病態を言葉で表現することや専門用語をわかりやすく説明することに苦労しました。

病気の話となると重く暗くなりやすく、さらに朝と昼に放送される番組なので、どうしても

「ブレイク」が必要になるそうです。そこで、リクエスト曲紹介やその選曲理由、人柄などを雑談交えて紹介するところが聴者に受けている理由だそうです。

最後に番組内で話題に出た家庭菜園でスイカ・メロンに挑戦した結果です。スイカは自然受粉でソフトボールくらいのが5個、メロンはやや大きくハンドボールくらいのが4個できました。しかし、スイカは実の色づきが悪く全く味がないものになり、メロンは熟しすぎて柔らかいものになるなどいろいろでした。うちの子供たちは期待していたようですが、なかなか素人には難しかったようです。



YBCラジオ収録記

なごみクリニック
伊藤 俊

収録の2、3週間前は緊張して食事もろくに喉を通らない毎日でした。

太めなのでちょうどいいダイエットになったかなと思います。

収録の前日私は緊張して眠れませんでした。

皆さんは一人でラジオ収録に行かれていますと思いますが、臆病な私は妻を連れてラジオ収録に臨みました。

原稿を用意してスタジオに入りましたが全く上手く喋れませんでした。

アナウンサーさんが朗らかな雰囲気を作ってくれなんとか緊張しないように配慮してくれましたが、普段と違う雰囲気に嘸んでしまったり、言葉に詰まってしまいました。

私の仕事は話すことではなく聴くことが中心

だから、と言い訳しながらも他の先生はどうやってあんなに上手く喋るんだろうと不思議に思いました。

アナウンサーさんに促されるままに妻との馴れ初めや学生時代の思い出をラジオの電波に乗せてしゃべってしまいましたが、後になって自宅で自分の声を聞いてみるとなんと恥ずかしいことか悶絶してしまいました。

後に編集で言いよどみや嘸んでいるところを直してくれる、との話だったのにほぼそのまま放送されているではないですか！

後で患者さんに「ラジオ聞きましたよ」「奥さんは庄内美人なんだってね」と声をかけられるとまた恥ずかしい思いをしました。

しかし診察室に入るのに怖がる患者さんが少なくなってくれれば思い切ってラジオに出演させてもらって良い経験をさせてもらいました。皆さんありがとうございました。

医師会ニューフェイス ～平成28年9月1日採用～



氏名：山田 晃 二

所属：湯田川温泉リハビリテーション病院 看護課 看護師

趣味・特技：卓球

ひとこと：米沢市より結婚を機に庄内（鶴岡市）へまいりました。主に回復期病棟で計11年間務めてきました。少々庄内弁に慣れないところがありますが、皆様に教わりながら勉強していきたいと思えます。気持ち新たにながらみます。どうぞよろしくお願いたします。

表紙

「銀閣寺」

佐藤 洋司

久しぶりの遠出は春の京都旅行でした。桜は満開、この時期は人出が一番多く、どこに行っても人々で酔いそうでした。私たちは隠れた桜の名所で絢爛たる桜を満喫しました。二日目に訪れたのが世界遺産「銀閣寺」で、御多分に漏れず混んではいましたが、幸いこのシャッターチャンスには人影が全くなく一瞬の静寂を感じました。(銀閣寺は東山慈照寺観音殿の俗称です。)

編集後記

9月に入りいまだ暑さがさめやりませんが、日ごとに秋の色が深まっております。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今年度より編集委員をさせていただいております。稚拙な文章かと思いますがどうぞ宜しくお願いいたします。

鶴岡地区医師会勉強会「妊娠・授乳中の薬の使い方」は診療に携わる医師であれば誰でも頭を悩ませる問題で詳細な解説は大変勉強になりました。

また准看護学院学校説明会では、高校生14名、社会人6名、保護者5名、計25名がご参加いただき、カリキュラム、学校概要の説明や医療器具を使用した実習を体験した、とのことでこれらの説明会を通してより医療に関心を持っていただき、未来の医療を担う看護師がより多く育成され、庄内地区の看護師不足が解消されれば良いかと思えます。

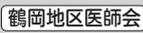
YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ではラジオ収録記を鶴岡市立庄内病院歯科口腔外科 武石 越郎先生となごみクリニック 伊藤 俊先生に出演いただきました。専門用語の解説に尽力いただき、また収録前は食事や睡眠ができない等、自分が出演した時が思い出され共感しました。ご苦労していただきましたがリスナーは興味深く聴いていた事でしょう。

最後に佐藤洋司先生より撮影いただいた表紙の写真「銀閣寺」はとても人酔いする程の混雑があったとは思えないくらい静かで堂々とした、美しい「銀閣寺」でした。

(木根淵 智子)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>